

平成25年度言語研修  
アルメニア語(東)研修テキスト1

# 東アルメニア語文法 I

Modern Eastern Armenian Grammar I

吉村貴之 著

東京外国語大学  
アジア・アフリカ言語文化研究所

2013





## 目次

第1課	文字と発音.....	1
第2課	基本の挨拶表現.....	3
第3課	人称代名詞と繫辞 [hútl] の現在形.....	5
第4課	一般動詞の現在形（その1）.....	7
第5課	名詞の複数形と後置冠詞.....	9
第6課	名詞の主格、不活動体の対格、属格の基本変化.....	12
第7課	名詞の属格：その他の変化形1.....	14
第8課	名詞の属格：その他の変化形2、場所を表す前後置詞.....	17
第9課	人称代名詞の属格と所有語尾、指示代名詞.....	19
第10課	名詞の処格と一般動詞の現在形（その2）.....	21
第11課	疑問詞と基数詞.....	24
第12課	序数詞、数量表現、名詞の与格.....	27
第13課	活動体の対格、動詞の未来形と未完了過去形.....	31
第14課	名詞の奪格、形容詞と副詞.....	34
第15課	形容詞と副詞の比較、名詞の具格.....	37
第16課	複数名詞と人称・指示代名詞の格変化、使役語尾.....	40
第17課	動詞の完了過去形.....	43
第18課	命令法.....	46
第19課	前後置詞のまとめ、不定詞句.....	49
第20課	接続詞、同等比較、小辞 tl.....	52



## 第1課 文字と発音

アルメニア文字は、アルメニア人のキリスト教聖職者メスロプ・マシュトツが紀元後5世紀頃にギリシア文字や古代シリア文字などを参考に創造した。かつては文字ごとに名称があったが、現在の東アルメニア語ではその文字の音価で呼ぶのが一般的。

### 文字 ラテン文字転写

Ա ա	a
Բ բ	b
Գ գ	g
Դ դ	d
Ե ե	ye (語頭で) , e (語中・語尾で)
Զ զ	z
Է է	e
Ը ը	ə [ə] は曖昧母音
Թ թ	t' [ ' ] は有気音を表す
Ճ ճ	zh [ʒ]
Ի ի	i 日本語のイよりは口を横に引く
Լ լ	l
Խ խ	kh [x]
Օ Օ	tz 口を横に引いて柔らかくツを発音する独特の子音
Կ կ	k
Հ հ	h
Ձ ձ	dz [dʒ]
Ղ ղ	gh [ɣ]
Ճ ճ	ch [tʃ]
Մ մ	m
Յ յ	y [j]
Ն ն	n
Շ Շ	sh [ʃ]
Ո ո	vo (語頭で) , o (語中・語尾で)
Չ Չ	ch' [tʃ']
Պ պ	p
Ջ Ջ	j [dʒ]
Ր ր	rr
Ս ս	s

Վ վ	v
Տ տ	t
Ր ր	r 語頭にはごく稀にしか来ない
Ց ց	ts' [ts']は日本語のツに近い有気音
Ու (ՈԻ) ու	u 日本語のウよりは口をとがらせる
Փ փ	p'
Ք ք	k'

և [ev] 語中・語尾で և と վ が連続する場合。もともと筆記体を活字化したもので、活字がない場合には ևլ で代用。

Օ օ	o
Ֆ ֆ	f

\*アルメニア共和国の正書法では、綴りと発音の一致が図られているが、例外もある。特に目立つのは、ր の後に来る有声破裂音・破擦音の有気化という現象である。例：կարդալ, վերջ 一方で、単語によっては ր の後でないのに有気化する場合もある。例：օգնել, շարք また、語尾の h が発音されない場合がある。例：աշխարհ, նախագահ, սրահ, ճանապարհ

\*アルメニア語は、口の中で大きく舌を動かす子音連続や三重子音を嫌うため、綴りになくても曖昧母音 [ə] を挿入して支えにする。例：մնալ[mənəl], հետաքրքիր[hetak'ərk'ir]

\*アクセントは、原則として単語の最終母音に落ちるが、一部例外がある。なお、アルメニア語のアクセントは母音をはっきり発音すればよいだけなので、必ずしも音が延びたり、音程が高くなったりするわけではない。

## 第2課 基本の挨拶表現

Բարև:	こんにちは。(24時間使える)
Բարև ձեզ:	こんにちは。(丁寧な言い方。Ձեզ のように大文字を使う書き方もある)
Ողջույն:	やあ。(ただし、ロシア語の <i>privet</i> を使う人も多い)
Բարի լույս:	おはよう。
Բարի օր:	こんにちは。
Բարի երեկո:	こんばんは。
Բարի զիշեր:	おやすみなさい。
Ցտեսություն:	さようなら。
Հաջողություն:	さようなら。(元来は、「ご成功を」)
Բարի գալուստ:	いらっしやいませ。
Համեցեք	どうぞ。いらっしやい。
Ինչպե՞ս եք:	ご機嫌いかがですか。(丁寧な言い方。くだけた発音では、
Ո՞նց եք:)	
Լավ եմ:	元気です。
Լավ չեմ:	元気ではありません。
Ոչինչ:	まあまあです。(アクセントに注意)
Ինչպե՞ս են գործերդ:	調子はどう？(文字通りには、「君の仕事はどう?」)
Ի՞նչ կա չկա:	どんな感じ？(俗語。文字通りには、「何かある、ない?」)
Շնորհակալություն:	ありがとうございます。(ただし、フランス語の <i>merci</i> を使う人も多い)
Շատ շնորհակալ եմ:	ありがとうございます。(Հազար մերսի も普及している)
Չարժի:	それほどでも。
Խնդրեմ:	どういたしまして。
Մի րոպե:	ちょっと、いいですか。(「待ってください」の意味でも)
Ներողություն:	すみません。
Ներեցե՛ք:	ごめんなさい。
Ոչինչ:	何てことはないです。

\*文末の : は、西欧語と違い、アルメニア語では句点、一方 , は西欧語と同じ読点である。<sup>◌</sup> は疑問符で、<sup>´</sup> は感嘆符である。疑問符と感嘆符は文意を決定す

るうえで中心となる語のアクセント母音の右肩に付ける。

会話例：

- Բարև ձեզ, պարոն Սիմոնյան:
- Բարև, Արամ, ինչպե՞ս ես:
- Լավ եմ: Իսկ դո՞ւք:
- Ես էլ եմ լավ:
  
- Սոնա ջան, ո՞նց են գործերդ:
- Ոչինչ: Դու ո՞նց ես, Սակո:
- Լավ եմ: Շատ շնորհակալություն:
  
- Ավիատոմսը, ինդրեմ:
- Ինդրեմ:
- Լավ: Բարի ճանապարհ:
- Շնորհակալ եմ: Հաջողություն:
  
- Հայկո, գործերդ լա՞վ են:
- Այո, շնորհակալ եմ: Իսկ քոնր ո՞նց են, Սարո:
- Կամաց-կամաց:

単語

**պարոն:** (男性に対する敬称) ~さん。苗字にも名前にも付けられる。なお、既婚女性への敬称は **տիկին**、未婚女性への敬称は **օրիորդ** である。

**էլ:** ~もまた

**ջան:** 下の名前に付けて親しみを表す接尾辞。日本語の「~ちゃん」に意味も発音も似ているが、大人同士でも使える。

**ավիատոմս:** 航空券

**քոնր:** 君のもの (所有代名詞)

**այո:** はい。ちなみに、「いいえ」は **ոչ** 。

**կամաց-կամաց:** まあまあ。文字通りには「ゆっくり、ゆっくり」



### 第3課 人称代名詞と繫辞 լինել の現在形

#### ・人称代名詞

アルメニア語の人称代名詞は以下の通り。

私	ես	私たち	մենք
君	դու	君たち、あなた（敬称）	դուք
その人	նա	彼ら、それら	նրանք

\*二人称複数形は、あまり親しくない人や目上の人に対する敬称としても用いられる。また、アルメニア語の人称代名詞の三人称単数形には性の区別はなく、元来「あれ」を意味する指示代名詞を人称代名詞として転用している。（三人称複数形も同様。）なお、三人称には ինքը（その人自身）、իրենք（彼ら自身）という再帰代名詞があり、話し言葉では、しばしば նա, նրանք の代わりに用いられる。

#### ・繫辞の現在変化

「～です」「ある」を意味するアルメニア語の繫辞 լինել の現在形は以下の通りになる。

ես եմ	մենք ենք
դու ես	դուք եք
նա է	նրանք են

\*一人称、二人称の単数形と複数形、さらに三人称の複数形は ե で始まるが、発音は例外的に [e] となる。これは繫辞の人称変化形は前の語とつなげて発音するため、語頭いう意識がないためである。また、三人称単数形 է は、他の変化形と文字が違っていることに注意。なお、東アルメニア語の俗な発音では、三人称単数形は [a] となる。

これを「元気だ」という意味の形容詞 լավ とともに文を作ると以下のようになる。（主語＋補語＋動詞の語順となることに注意。）

Ես լավ եմ:	Մենք լավ ենք:
Դու լավ ես:	Դուք լավ եք:
Նա լավ է:	Նրանք լավ են:

否定文は、繫辞の人称変化形の前に否定の接頭辞 չ を付ける。

Ես լավ չեմ:	Մենք լավ չենք:
Դու լավ չես:	Դուք լավ չեք:
Նա լավ չէ:	Նրանք լավ չեն:

疑問文は、疑問の中心になる単語のアクセント母音を上げ調子で発音する。

Դու լա՞վ ես:    Դու լավ ե՞ս:

これに対し、「はい」は、Այո: 「いいえ」は、Ոչ: である。話し言葉では、余程確信を持って答える場合以外は、それぞれ Հը(Հա): Չէ: となる。

練習 1 : 次の文章の空欄に適切な繫辞の現在人称変化を入れよ。

- ① Մենք լավ \_\_\_\_\_:
- ② Նա լավ \_\_\_\_\_:
- ③ Դու լավ \_\_\_\_\_:
- ④ Նրանք լավ \_\_\_\_\_:
- ⑤ Դուք լավ \_\_\_\_\_:
- ⑥ Ես լավ \_\_\_\_\_:

練習 2 : 上で得られた正解を否定文にせよ。

- ① Մենք լավ \_\_\_\_\_:
- ② Նա լավ \_\_\_\_\_:
- ③ Դու լավ \_\_\_\_\_:
- ④ Նրանք լավ \_\_\_\_\_:
- ⑤ Դուք լավ \_\_\_\_\_:
- ⑥ Ես լավ \_\_\_\_\_:

## 第4課 一般動詞の現在形（その1）

### ・動詞の原形

東アルメニア語の動詞は、原形の語尾によって二種類に分けられる。

ել 動詞：գրել「書く」, ուտել「食べる」, սովորել「学ぶ」 など

ալ 動詞：կարդալ「読む」, գնալ「行く」, մնալ「留まる」 など

### ・一般動詞の現在形

一般動詞の現在形の作り方は、原形語尾 -ել, -ալ を、進行分詞の語尾 -ում に取り換え、その後に繫辞 լինել の現在人称変化語尾を付ける。

進行分詞+繫辞 լինել の現在変化

例：սովորել「学ぶ」

եւ սովորում եմ	մենք սովորում ենք
դու սովորում ես	դուք սովորում եք
նա սովորում է	նրանք սովորում են

\*近代アルメニア語の場合、一般動詞の現在形は、形態論上は現在進行形である。そのため、習慣的な動作を表す現在形なのか、瞬間的な動作を表す現在進行形なのかは、文脈を見て判断するしかない。

否定文の作り方は、լինել 単独の現在形と微妙に違っている。

եւ չեմ սովորում	մենք չենք սովորում
դու չես սովորում	դուք չեք սովորում
նա չի սովորում	նրանք չեն սովորում

\*否定辞を含む չեմ, չես, . . . が進行分詞の前に置かれる。(լինել の人称変化形が、文意を決定する重要な語の傍に寄って行くため。) また、三人称単数形が չի となっていることにも注意。なお、疑問文の作り方は լինել 単独の疑問文と同じ。

練習1：次の動詞を現在変化させよ。

գրել, ուտել, կարդալ, գնալ, մնալ

練習2：練習1の動詞を使って現在形の否定形を作ること。

練習3：練習1の動詞を使って現在形の疑問文を作ること。

\* 東アルメニア語の大半の動詞の現在形は上記の作り方となるが、一部例外がある。

・ 例外 1 : գալ 「来る」, լալ 「泣く」, տալ 「与える」

これら 3 つの動詞は、原形にそのまま進行分詞 -իս を加えて、լինել の現在人称変化を付ける。

例 : գալ 「来る」

ես գալիս եմ	մենք գալիս ենք
դու գալիս ես	դուք գալիս եք
նա գալիս է	նրանք գալիս են

\* 否定文や疑問文の作り方は、第 4 課で学んだ通り。

・ 例外 2 : ունենալ/ունել 「持っている」, գիտենալ/գիտել 「知っている」 など

ես 例 : ունենալ/ունել 「持っている」

ունեմ	մենք ունենք
դու ունես	դուք ունեք
նա ունի	նրանք ունեն

\* 動詞の語幹と人称変化が融合している点に注意。なお、三人称単数形の異形として ունե もあるが、現在の東アルメニア語では衰退している。

\* 否定文は語幹と語尾が融合しているため、否定の接頭辞は動詞の前に置く。

ես չունեմ	մենք չունենք
դու չունես	դուք չունեք
նա չունի	նրանք չունեն

練習 1 : 次の動詞を現在変化させよ。否定文も作ること。

տալ

練習 2 : 次の動詞を現在変化させよ。否定文も作ること。

գիտենալ

## 第5課 名詞の複数形と後置冠詞

・アルメニア語の名詞の特徴

文法性なし、単数・複数の区別、格変化

・職業名を表す語に女性形-ուհի あり

ուսուցիչ (教師) → ուսուցչուհի (女教師)

他の例は、語彙集を参照のこと。

・複数形の作り方

\* 単音節語には語尾 -եր を、複音節語には語尾 -ներ を付ける。

սար (山) → սարեր

մոմ (蠟燭) → մոմեր

օր (日) → օրեր

աման (皿) → ամաններ

ただし、単音節に見えても語頭に二重子音がある場合は、曖昧母音を挟んで支えにするので複音節とみなす。一方、語尾に二重子音がある場合は、複数語尾を付ける際に曖昧母音を落とすため、単音節とみなす。

գլուխ (頭) → գլուխներ

սետր (ノート) → սետրեր

\* 単音節語で幹母音が i, u の弱母音になっている場合は、複数形にする際に幹母音が脱落する。(ただし、脱落した個所は曖昧母音に置き換わるので、音声学上は母音の弱化となる。)

գիրք (本) → գրքեր

տուն (家) → տներ

変則 : երկիր (国) → երկրներ

これは複音節語なのに ի が脱落するが、逆に

թուրք (トルコ人) → թուրքեր

のように、単音節なのに ու 脱落しないものがある。他に、լուր (ニュース) などがある。また、母音 ու で終わる単音節語の場合、これを վ に換えて複数語尾を付ける。(アルメニア語に[w]音がないため。)

ծու (卵) → ձվեր

\* 語源上の理由で、複数形で ն が表れるものがある。

զառ (羊) → զառներ

դուռ (扉) → դռներ

他に、ակ (泉、宝石), եզ (牛), թոռ (孫), ծոռ (曾孫), լեռ (山), ծունկ (膝), քեռ (積荷), հարս (嫁), ձուկ (魚), մատ (指), մուկ (鼠), նուռ (ザクロ)  
 変則: ռուս (ロシア人) → ռուսներ ← 幹母音が脱落しない点に注意。

\* 全くの不規則もある。(ほとんどが、古典語由来。)

մարդ (人)                      մարդիկ [mart'ik']

տղամարդ (男)                տղամարդիկ

կին (妻、女)                    կանայք

տիկին (既婚女性への敬称)    տիկնայք

պարոն (男性への敬称)        պարոնայք

անձ (個人)                      անձինք

ただし、տղա (少年、息子) には、տղաներ という規則複数形と、俗語だが、տղերք という不規則複数形とがある。

\* 複合語の場合は、後の要素の音節数を基に複数形を作る。

դասագիրք (教科書)            դասագրքեր

練習 1 : 次の名詞を複数形にせよ。

գառ, սիրտ, գունդ, բերան, սեղան, խնձոր, մատ, նուռ, նախահայր

・東アルメニア語には不定冠詞はなく、定冠詞のみ。しかし、西欧語と違い、名詞の語尾に続ける。(後置冠詞)

սար                      սարը

մոմ                      մոմը

կատու                կատուն

Գայանե              Գայանեն

\* 名詞が閉音節語の場合は ը を、開音節語の場合は ն を付ける。ただし、լինել の変化形や接続詞 ու のように母音で始まる語で前の単語と続けて発音する場合には、この規則に従わない。また、名詞に語尾のように付け加えるため、後置冠詞が曖昧母音の時にもアクセントは置かない。

練習 2 : 例にならって、下線部の単語を続く単語と入れ替えて文を完成すること。アルメニア語では人名にも後置冠詞が付くことに注意。

- ① Արամը գալիս է:  
Արա, Սոնա, Արմեն, Նանե
- ② Սա ո՞վ է: - Սա Նանեն է:  
Գևորգ, Լուսինե, Սիմոն, Անահիտ

## 第6課 名詞の主格、不活動体の対格、属格の基本変化

東アルメニア語の名詞は、文法的な役割によって、主格、属格、与格、対格、奪格、具格、処格の7格に変化する。

・主格は辞書の見出しに掲載される形で、文中で主語になったり、補語になったりする。

例：Արամը ուսանող է։ アラムは学生だ。

・対格は他動詞の直接目的語となる時の形で、日本語の格助詞「を」にほぼ相当する。本課では物を表す名詞（不活動体）の対格を扱うが、その場合は主格と同じ形である。

例：Ուսուցիչը գրում է նամակ։ 教師は手紙を書く。

\*正式な書き言葉では、例文のように目的語は動詞の後に置かれるが、話し言葉では、日本語と同じ語順になることが多い。

Ուսուցիչը նամակ է գրում։

\*また、アルメニア語では場所を表す名詞の無冠詞の対格形が方向を表す副詞となる。

例：Հիմա ես գնում եմ համալսարան։ 今、私は大学に行くところだ。

練習：次の文章をアルメニア語に訳しなさい。

- ① 私は手紙（նամակ）を書く（գրել）。
- ② アラムは本（գիրք）を読む（կարդալ）。
- ③ 君は新聞（թերթ）を持っている（ունենալ）。
- ④ 私たちは家に帰る（տուն գալ）。
- ⑤ アリスとルシネ（Ալիսն ու Լուսինեն）は音楽（երաժշտություն）を聴く（լսել）。
- ⑥ 君たちはエレヴァン（Երևան）に来る（գալ）。

・属格は他の名詞を修飾する時の形で、日本語の格助詞「の」に相当する。アルメニア語の属格形の変化形は少々複雑なので、まずは最も多くの単語に見られる語尾-ի について学ぶ。このタイプは、主格形に語尾-ի を付ける。

主格形	属格形
Արամ	Արամի



### Լուսինե

### Լուսինեի

\* 複数形を作る際に幹母音が脱落した語は、属格形を作る際にも同様の現象が起きる。

例：主格形

属格形

գիրք

գրքի

ջուր (水)

ջրի

ただし、母音 **ե** で終わる単語の場合、語尾-ի との母音衝突を避けるために、綴りにはなくとも、間に[y]音を挿入する。これに対し、強母音（口を大きく開ける母音）**ա, ո** で終わる単語の場合には、発音通りに **յ** を書かなければならない。

例：主格形

属格形

սղա (少年、息子)

սղայի

կինո (映画、映画館)

կինոյի

また、母音 **ու** で終わる単語の場合、これを **վ** に換えて語尾-ի を付ける。

ձու (卵)

ձվի

լեզու (言語、舌)

լեզվի

\* なお、属格形が修飾する語はその後に置かれる。つまり、日本語と同じ語順となる。また、たいてい被修飾語には後置冠詞が付く。

例：Լուսինեի գիրքը նոր է։

練習：下線部の語を属格形にして文章を完成させよ。

- ① Աշոտ հայրը բանվոր է։
- ② Արմինե մայրը վարսավիր է։
- ③ Նա ունի կինո տոմսը։
- ④ Նրանք ուտում են խոզ միս։
- ⑤ Տիկոն սովորում է արվեստ պատմությունը։

## 第7課 名詞の属格：その他の変化形1

第6課に引き続き、基本の **ի** 変化以外の属格形を扱う。

### ・ **ու** 変化

主格が母音 **ի** で終わる場合は、それを **ու** に換えると属格形となる。

例：主格形 属格形

որդի (息子) որդու

գինի (ワイン) գինու

変則：ծի (馬) ձիու

ただし、一部の地名や人名は、基本変化の語尾を付けることがある。その際は、母音衝突を避けるために、綴りにはなくとも、間に[y]音を挿入する。

Անի (地名または人名) Անիի

\*また、主格が母音 **ի** で終わっていないのに、この変化になる語がある。

例：主格形 属格形

մարդ (人) մարդու

ամուսին (夫) ամուսնու

անկողին (ベッド) անկողնու

\*不定詞(動詞の原形)を名詞として使う場合もこの変化となる。

主格形 属格形

գրելը գրելու

կարդալը կարդալու

### ・ **ա** 変化

これは、幹母音が **ու** となる一部の語に見られる。このタイプは語尾を付けるのではなく、幹母音や最終母音を **ա** に換えることによって得られる。

例：主格形 属格形

տուն (家) տան

շուն (犬) շան

変則：անուն (名前) անվան →属格形に **վ** が挿入される点に注意  
他に ձյուն (雪), արյուն (血), սյուն (柱), անկյուն (隅) などがあるが、最近は基本変化になりつつある。

\*抽象名詞化語尾-ությունを持つ語も、この変化に属す。

例：主格形 属格形

ուրախություն (喜び) ուրախության

արտադրություն (生産) արտադրության

ազգություն (民族性)

ազգության

• ան 変化

複数形を作る際に **ն** が表れるタイプの名詞の大半ならびに季節を表す語、さらには動作を表す名詞化語尾 **-ում** に見られる。このタイプは、主格形に語尾 **-ան** を付けることによって得られる。

例： 主格形                      属格形  
      **գառ** (羊)                      **գառան**  
      **դուռ** (扉)                      **դռան**

他に **ակ** (泉、宝石), **եզ** (牛), **թոռ** (孫), **ծոռ** (曾孫), **լեռ** (山), **ծունկ** (膝), **բեռ** (積荷), **ծուկ** (魚), **մատ** (指), **մուկ** (鼠), **նուռ** (ザクロ) などがあるが、最近では基本変化の語尾を付ける例も目立つ。また、

変則：主格形                      属格形  
      **մանուկ** (幼児)              **մանկան**  
      **մահ** (死)                      **մահվան** ←属格形に **վ** が挿入される点に注意

なお、基本変化の語尾を付けることも多い。

\* 季節を表す単語

例： 主格形                      属格形  
      **գարուն** (春)                      **գարնան**  
      **ամառ** (夏)                      **ամռան** ←格変化で **ա** が脱落するのは希  
      **աշուն** (秋)                      **աշնան**  
      **ձմեռ** (冬)                      **ձմռան** ←格変化で **ե** が脱落するのは希

\* 動作を表す抽象名詞化語尾 **-ում** を持つ語も、この変化に属す。

例： 主格形                      属格形  
      **բաժանում** (分離)              **բաժանման**  
      **հանդիպում** (出会い)        **հանդիպման**

• վա 変化

時間に関係する語のほとんどがこのグループに属す。

例： 主格形                      属格形  
      **օր** (日)                              **օրվա**  
      **Ժամ** (時刻の時間)              **Ժամվա**

他に、**առավոտ** (朝), **կեսօր** (正午、午後), **գիշեր** (夜), **ցերեկ** (日中), **շաբաթ** (週、土曜日), **երեկ**, **այսօր**, **Ժամանակ** (時間) などがあるが、**րոպե** (分), **վայրկյան** (秒), **դար** (世紀) は基本変化の語尾が付く。なお、**ան** 変化の **ամառ**, **ձմեռ** は、この変化も可能。

変則：主格形	属格形
ամիս (月)	ամսվա
տարի (年)	տարվա
վաղը (明日)	վաղվա

練習：下線部の語を属格形にして文章を完成させよ。

- ① Ամուսին հայրը բանվոր է:
- ② Որդի ընկերը վարսավիր է:
- ③ Նա ունի տուն բանալին:
- ④ Նրանք ուտում են եգ միս:
- ⑤ Հայկը պատրաստում է կեսօր քննությունը:

## 第8課 名詞の属格：その他の変化形2、場所を表す前後置詞

本課では、属格の残りの変化形を扱う。

### ・n 変化

家族関係を表す語で、主格形の幹母音 այ が n に変わるものがある。

例： 主格形	属格形
հայր (父)	հոր
մայր (母)	մոր
եղբայր (兄・弟)	եղբոր

հորեղբայր (父方のおじ) などの複合語もこの変化に属す。

### ・nջ 変化

これも家族など人間関係を表す語からなるが、こちらは主格形に語尾-nջ を付けることによって得られる。幹母音が脱落したり、音韻変化したりするものが多い。

例： 主格形	属格形
քույր (姉・妹)	քրոջ
կին (妻・女性)	կնոջ
ընկեր (友達・同志)	ընկերոջ
տեր (主人)	տիրոջ ← 単音節語の ե は ի に変わることがある

他に、աներ (舅), սկեսուր (姑。属格形では ու が脱落), տալ (小姑) がある。また、մորաքույր (母方のおば), տանտեր (大家) などの複合語もこの変化に属す。

### ・不規則変化

特異的な属格形語尾になる語がいくつかある。

例： 主格形	属格形
աղջիկ (少女、娘)	աղջկա
ղուստր (娘)	ղստեր ← 出沒母音に注意
կայսր (皇帝)	կայսեր ← 曖昧母音が ե に変わる
աստված (神)	աստծու, աստծո
սուրբ (聖人)	սրբո
սեր (愛)	սիրո ← ե が ի に変わる

練習1：下線部の語を属格形にして文章を完成させよ。

- ① Հայր ընկերը բանվոր է:
- ② Տանտեր կինը վարսավիր է:
- ③ Նա ունի աղջիկ գիրքը:
- ④ Նրանք ուտում են դուստր ճաշը:
- ⑤ Մոնան կարդում է սուրբ պատմությունը:

・ 場所を表す前置詞と後置詞

アルメニア語は印欧語としては珍しく、前置詞よりも後置詞の方が発達している。前後置詞は、ある特定の名詞の格と結びつくので、前後置詞を覚える際にその格も一緒に暗記する必要がある。今回は属格と結びつく場所を表す後置詞を覚える。վրա (「~の上に」だが、ニュアンスは英語の on に同じ) , տակ (~の下に) , մոտ (~の側に。「~さんの所で」という意味でもよく使われるが、俗語とされる) , մեջ (~に)

例文 : Գիրքը սեղանի վրա է:	本は机の上にある。
Տետրը սեղանի տակ է:	ノートは机の下にある。
Գրիչը գրքի մոտ է:	ペンは本の側にある。
Մատիտը գրքի մեջ է:	鉛筆は本の中 (または、所) にある。

練習 2 : 次の文をアルメニア語に訳しなさい。

- ① ペン (複数) はかばん (պայուսակ) の中にある。
- ② 牛乳は冷蔵庫 (սառնարան) の中にある。
- ③ 鉛筆は椅子 (աթոռ) の下にある。
- ④ 皿 (複数) は食器棚 (պահարան) にあります。
- ⑤ 本 (複数) は棚 (դարակ) の側にあります。

・ 目的を表す後置詞

また、目的を表す後置詞 համար も属格名詞と結びつく。

例文 : Արան գնում է համալսարան դասի (համար): アラは講義のために大学へ行く。

Գայանեն գնում է փոստատուն նամակն ուղարկելու համար: ガヤネは手紙を発送しに郵便局へ行く。

なお、この場合、համար はよく省略される。

## 第9課 人称代名詞の属格と所有語尾、指示代名詞

### ・人称代名詞の属格形

アルメニア語の人称代名詞の属格形は、ドイツ語やロシア語と違い、属格要求の前後置詞と一緒に用いられるだけでなく、名詞を修飾することも出来る。

主格形	属格形	主格形	属格形
ես	իմ	մենք	մեր
դու	քո	դուք	ձեր
նա	նրա	նրանք	նրանց

なお、三人称の再帰代名詞 ինքը, իրենք の属格形はそれぞれ իր, իրենց となる。話し言葉の主格では նա, նրանք の代わりになるのと違い、属格では再帰代名詞は主語と一致しているのに対し、նրա, նրանց は主語とは別人であることを示す。

\*アルメニア語には一人称単数ならびに二人称単数のみ所有語尾と呼ばれる接尾辞があり、それぞれ名詞に続けて上の իմ, քո と同じ意味を表す。

一人称単数：-u ただし、発音は[əs]、二人称単数：-դ ただし、発音は[ət']

例：գիրքս (私の本), նամակդ (君の手紙)

\*規範文法では、人称代名詞の属格に修飾された名詞には後置冠詞を付ける。

一方、所有語尾を付けた名詞には、人称代名詞の属格形で修飾しない。

例：իմ գիրքը ⇔ գիրքս, քո նամակը ⇔ նամակդ

### ・アルメニア語の指示代名詞は以下のようになる。

単数形	複数形
սա (これ)	սրանք (これら)
դա (それ、あれ)	դրանք (それら、あれら)
նա (あれ、その人)	նրանք (あれら、彼ら)

なお、նա, նրանք は距離的に遠いだけでなく、心理的に遠いものを表し、さらには三人称の人称代名詞として用いられる。

\*指示代名詞の属格形は以下のようになるが、人称代名詞の場合と違い、これらは属格要求の前後置詞としか結びつかない。

主格形	属格形	主格形	属格形
սա	սրա	սրանք	սրանց
դա	դրա	դրանք	դրանց

նա

նրա

նրանք

նրանց

\* 一方、指示代名詞が名詞を修飾する場合には、特別な形がある。

主格形                      名詞修飾用の代名詞

սա                              այս (この)

դա                              այդ (その、あの)

նա                              այն (あの、例の)

なお、アルメニア語の3人称の代名詞 նա, նրանք は、通常既出の物を表す名詞を指し示さないため、名詞を繰り返したくない場合には、省略するかこの այն を代用する。

練習1 : 次の例文中の下線部の人称代名詞の属格と名詞を下の語群の単語と入れ替えよ。

例文 : Սա իմ դասագիրքն է, իսկ դա քո դասագիրքն է : これは私の教科書で、一方、あれは君の教科書だ。

人称代名詞 : մեր, նրա, ձեր, նրանց

名詞 : դասարան (教室), բաժակ (コップ), եղբայր, հայր, ընտանիք (家族), խանութ (店), բառարան (辞書), կավիճ (チョコレート)

練習2 : 次の文が正しくなるよう選択肢から選ぶこと。

- ① (Սա, Սրանք) իմ հայերենի գիրքն է:
- ② (Դա, Դրանք) քո մա՞յրն է:
- ③ (Սա, Սրանք) իմ ընկերներն են:
- ④ (Դա, այդ) գիրքը անգլերե՞ն է:
- ⑤ (Սրանք, այս) նամակը երկար է:
- ⑥ Ռուսերեն գրքերը (այդ, դրանք) են:



## 第 10 課 名詞の処格と一般動詞の現在形（その 2）

### ・ 処格

処格は動作が行われる場所を表し、日本語の「～で」や「～に」に近い。主格形に語尾-nւմ を付けることで得られる。ただし、属格形で幹母音が脱落するものは、処格形でも同じ現象が起きる。また、主格形が強母音 u, n で終わる場合は母音の衝突を避けるための子音 j を表記する。

例： 主格形 処格形

հիվանդանոց (病院) հիվանդանոցում

գիրք (本) գրքում

կինո (映画館) կինոյում

変則：「家」の処格形だけは属格形を基にして作る。

տուն տանը

例文：Արամը աշխատում է դպրոցում։ アラムは学校で働いている。

Արմինեն տա՞նն է։ アルミネは在宅ですか。

\* 処格は東アルメニア語特有の格で、西アルメニア語にはない。そのため、名詞の属格+մէջ との区別が曖昧なところがあるが、以下の点が処格に特徴的である。つまり、処格は自由に運動できる空間を持つものの内部にあることを示すため、人を表す名詞（活動体）には処格形がない。そのため、「人にある性質が宿る」、「人の所で」といったニュアンスを表す場合には、名詞の属格+մէջ を用いる。

例文：Այդ մարդու մէջ ազնվություն է։ あの人には正直さがある。

また、期間を表すことも出来る。

例文：Տասնհինգ րոպեում հասնում եմ համալսարան։ 15 分で大学に着く。

練習 1：次の文をアルメニア語に訳しなさい。

- ① 私は東京 (Տոկիո) に住んで (ապրել) いる。
- ② 君は、学校で働いていますか。
- ③ 私の姉は、大学で勉強している。
- ④ アラムの兄弟（複数）は、在宅中だ。
- ⑤ 私たちは、庭 (պարտեզ) を歩いて (քայլել) いる。

### ・ 特殊な現在変化をする動詞 կամ, արժենալ (արժել)

アルメニア語の繫辞 լինել は、他の印欧語族と同じように、「～である」と「存

在する」という二つの意味を持つが、「存在する」意味だけを表す動詞がある。それが、կամ であるが、原形がなく、辞書にも一人称単数形の կամ を見出し語に載せたり、三人称単数形の կա を見出し語に載せたりとまちまちである。人称変化は以下のようなになる。

եւ կամ	մենք կանք
դու կաս	դուք կաք
նա կա	նրանք կան

人称変化語尾の幹母音が ա であることに注意。このうち、一人称と二人称の変化形は、եւ լինում եմ のように繫辞の一般動詞化による代用表現があるためあまり用いられず、専ら三人称が使われている。

例文：Սեղանի վրա կան նոտեր։ 机の上にノートがある。

\* 否定形は語幹と語尾が融合しているため、動詞の直前に否定辞を置く。

եւ չկամ	մենք չկանք
դու չկաս	դուք չկաք
նա չկա	նրանք չկան

練習 2：次の文をアルメニア語に訳しなさい。

- ① この机の上には、月刊誌 (ամսագիր) がある。
- ② 君の本 (の中) に詩 (երգ, 複数形で) が載っている。
- ③ その新聞 (թերթ) に記事 (հոդված, 複数形で) が載っている。
- ④ 壁 (պատ) に時計 (ժամացույց) が掛かっている。
- ⑤ 私たちの教室 (լսարան) には黒板 (գրատախտակ) がある。
- ⑥ あなたの部屋 (սենյակ) に絵 (նկար, 複数形で) があります。
- ⑦ 私の鞆 (պայուսակ) にペン (զրիչ) がある。

\* 一方、「値段が～する」という動詞 արժենալ (արժել) は、理念的には一人称と二人称はあるものの、現実にはその意味からしても三人称しか用いられない。

նա արժե (արժի)	նրանք արժեն
----------------	-------------

なお、三人称単数には二通りの人称語尾があるが、どちらも同じように使われている。どちらか一方を覚えておけば十分。また、否定形は

նա չարժե (չարժի)	նրանք չարժեն
------------------	--------------

である。

例文：Ի՞նչ արժե։ おいくらですか。

・複合動詞

アルメニア語には、動詞と他品詞を組み合わせることで熟語化する複合動詞というものがある。単に名詞と他動詞を組み合わせたものと違って、語順などの面で特徴がある。

例：ցույց տալ (示す) の現在形

ես ցույց եմ տալիս	մենք ցույց ենք տալիս
դու ցույց ես տալիս	դուք ցույց եք տալիս
նա ցույց է տալիս	նրանք ցույց են տալիս

ここで注意したのは、լինել の現在変化形が、非動詞部 ցույց と進行分詞 տալիս の間に割って入ることである。この3要素の語順を変えることはできない。また、否定形も同様の語順になる。

ես ցույց չեմ տալիս	մենք ցույց չենք տալիս
դու ցույց չես տալիս	դուք ցույց չեք տալիս
նա ցույց չի տալիս	նրանք ցույց չեն տալիս

アルメニア語にはこの複合動詞が多く、他に դուրս գալ (外出する), վեր կենալ (起き上がる), թույլ տալ (= թույլատրել, 許可する), խորհուրդ տալ (助言する), տեղի ունենալ (発生する), դուր գալ (気に入る), դեն գցել (捨てる), խույս տալ (= խուսափել, 避ける), հոգ տանել (= հոգալ, 世話をする), խաղ անել (= խաղալ, 遊ぶ) などがある。

練習3：次の動詞を現在変化させよ。次いで否定形も作りなさい。

- ① դուրս գալ
- ② վեր կենալ
- ③ թույլ տալ
- ④ դեն գցել
- ⑤ խաղ անել

## 第 11 課 疑問詞と基数詞

・アルメニア語の疑問詞についてのまとめ。

ն՞վ (誰が) ←発音は[ov]。ちなみに、複数形もあって、ովքե՞ր である。

ն՞ւմ (誰の) は、ն՞վ の属格形で直後の名詞を修飾する。「誰を」という対格にもなる。また、修飾される名詞には後置冠詞が付くのが普通。

ի՞նչ (何が) は、「何を」という対格にもなる。ちなみに、複数形は、ինչե՞ր 。

Ինչպիսի՞ (どのような) は、修飾される名詞の種類や様態を尋ねる。ただし、ի՞նչ で代用されることも多い。

ն՞ր (どの) は、直後の名詞を修飾する。

որտե՞ղ (どこに) は、主語の所在を尋ねる。これに対して、

ն՞ր (どこへ) は、動作の方向を尋ねる。

ե՞րբ (いつ) は、時を尋ねる。

ինչո՞ւ (なぜ) は、理由を尋ねる。ինչի՞ համար という形もある。

ինչպե՞ս (どのように) は、様態を尋ねる。

քանի՞ (いくつ、どれくらい) は、個数や分量を尋ねる。Ինչքա՞ն という形もある。

Ո՞վ է նամակ գրում:	誰が手紙を書いているのですか。
Ովքե՞ր են սրանք:	こちらは、どなた方でしょう？
Սրանք ո՞ւմ գրիչներն են:	これらは、誰のペン？
Ի՞նչ ես անում:	何をしていますの？
Ինչպիսի՞ հագուստ եք փնտրում:	どんな服をお探しでしょうか。
Ո՞ր լավաշն եք ուզում:	どのラヴァシュが欲しいですか。
Որտե՞ղ է բնակարանդ:	君のアパートはどこ？
Ո՞ր ես գնում:	どこへ行く？ (別れ際によく聞く表現)
Ե՞րբ է մայրս գալիս տուն:	いつ私の母は帰宅するのだろうか？
Ինչո՞ւ չես ուտում:	なぜ食べない？
Ինչպե՞ս են գործերդ:	調子はどう？ (文字通りには、君の仕事はどう？)

Քանի՞ մատիտ կա սեղանի վրա: 机の上には鉛筆が何本ありますか。←単数名詞を従える点に注意

疑問詞は必ずしも文頭に持ってくる必要はないが、լինել の人称変化形があれば、必ず疑問詞の直後 (ն՞ւմ, ն՞ր, քանի՞ の場合は、それが修飾する名詞の後) に置かなければならない。繫辞は文意を決定する重要な単語に寄って行く性質があるためである。同様に、単純疑問文でも、意味の力点によって繫辞の語順が変わる。

- 例 : Հիմա Արամը գնում է տուն : (今アラムは帰宅するところだ) の疑問文  
 Հիմա Արամը գն<sup>ո</sup>ւմ է տուն : ←一番普通の聞き方  
 Հիմա Արա<sup>մ</sup>ն է գնում տուն : ←動作主がアラムかが問題  
 Հիմա Արամը տո<sup>ւ</sup>ն է գնում : ←学校などではなく家に向かうかが問題  
 Հիմա<sup>ո</sup> է Արամը գնում տուն : ←動作が行われるのが今かが問題

練習 1 : 次の文が成立するように正しい疑問詞を選べ。

- ① (Ի<sup>նչ</sup>, Ո<sup>վ</sup>, Ո<sup>ր</sup>) է նշանակում այդ բառը :
- ② (Ո<sup>ւմ</sup>, Քանի<sup>՞</sup>, Ո<sup>ր</sup>) գիրք կա դարակում :
- ③ Սա (ո<sup>ւմ</sup>, Ե<sup>րբ</sup>, ո<sup>ր</sup>) տունն է :
- ④ (Ո<sup>ր</sup>, Ինչպե՞ս, Որտե՞ղ) է տոմսը :
- ⑤ (Ե<sup>րբ</sup>, Ի<sup>նչ</sup>, Ո<sup>ր</sup>) է դասը սկսում :
- ⑥ (Ո<sup>վ</sup>, Ինչո՞ւ, Ի<sup>նչ</sup>) է կարդում դասը :
- ⑦ (Ո<sup>ր</sup>, Ո<sup>ւմ</sup>, Քանի<sup>՞</sup>) են մեկնում :

語註 : նշանակել : 意味する、բառ : 単語、դարակ : 引き出し、տուն : 切符、  
 դաս : 授業、սկսել : 始まる、մեկնել : 出発する

• 基数詞

アルメニア語には、他の印欧語族と同様、数量を表す基数詞と順番を表す序数詞がある。基数詞のシステムは比較的明快である。

1	մեկ / մի		16	տասնվեց	[tasnəvets']
2	երկու		17	տասնյոթ	[tasnyot']
3	երեք		18	տասնութ	[tasnu']
4	չորս		19	տասնինը	[tasninə]
5	հինգ		20	քսան	
6	վեց		21	քսանմեկ	
7	յոթ		30	երեսուն	
8	ութ		40	քառասուն	
9	ինը		50	հիսուն	
10	տաս(ը)		60	վաթսուն	
11	տասնմեկ	[tasnəmek]	70	յոթանասուն	
12	տասներկու	[tasnerku]	80	ութսուն	
13	տասներեք	[tasnerek']	90	իննսուն	
14	տասնչորս	[tasnəch'ors]	100	հարյուր	
15	տասնհինգ	[tasnəhing]	101	հարյուր մեկ	

1000	հազար
10000	տաս հազար
1000000	միլիոն

このうち、1 の異形 մի は名詞とともに使われるときの形。9 の ինը は、複合語を作る際には ինն- になる。同様に 10 の տաս も複合語を作る際には ն を挿入する。(տասը は口語発音。) また、80 を ութանասուն と言うアルメニア人が多いが、これは俗語である。

また、基数詞を綴る際は、2 桁までが続け書きで、3 桁以上は分かち書きになる。

\* 基数詞と数詞が結び付く際には、数詞が 2 以上であっても、**名詞は単数形にするのが原則**。また、アルメニア語には、数は少ないものの、助数詞と呼べるものがある。代表的なものは、物を数える時に使う հատ (個) と、人を数える時に使う հոգի [hok'i] (人) である。他に、կտոր (切れ) などがある。

練習 2 : 次の数をアルメニア語で言うこと。

10、16、24、28、30、35、40、42、48、50、51、69、71、73、87、89、90、105、176、207、248、382、1021、1104、1485、1730、1963、1995

練習 3 : 例文中の下線部の名詞と数詞を下語群の単語と入れ替えよ。

例文 : - Ի՞նչ արժե մի կիլոգրամ պանիր:                    チーズ 1 キロいくらですか。

- Երկու հազար դրամ:                    2000 ドラムです。

名詞 : խնձոր, կաթ, գինի, տանձ (梨), դեղձ (桃), ծիրան (杏), սոխ (玉葱), լոլիկ (トマト), վարունգ (胡瓜)

数詞 : 1500、500、2000、1700、1800、1200、350、220、180

## 第12課 序数詞、数量表現、名詞の与格

### ・序数詞

アルメニア語の序数詞は、1～4番目だけが特殊な言い方で、5番目以降は基数詞に-երորդ を付けることで得られる。なお、この序数化語尾にはアクセントは落ちない。

1-ին	առաջին	11-րդ	տասնմեկերորդ
2-րդ	երկրորդ	12-րդ	տասներկուերորդ
3-րդ	երրորդ	13-րդ	տասներեքերորդ
4-րդ	չորրորդ	14-րդ	տասնչորսերորդ
5-րդ	հինգերորդ	15-րդ	տասնհինգերորդ
6-րդ	վեցերորդ	...	
7-րդ	յոթերորդ	20-րդ	քսաներորդ
8-րդ	ութերորդ	...	
9-րդ	իններորդ	100-րդ	հարյուր
10-րդ	տասներորդ	115-րդ	հարյուր տասնհինգերորդ

なお、10番目は、տասերորդ という異形もある。また、序数詞の略記法として、上記のアラビア数字と語尾2文字で書く方法以外に、ローマ数字（I、II、III、・・・）を使用するソ連時代の習慣も残っている。また、君主やカトリコス（アルメニア教会の首長）の名に用いられる「～世」の表し方は、古典語時代にアルファベットで数詞を表記していた慣用に従っている。（付録参照）例：Գարեգին Բ（ガレギン2世）

練習1：例文中の下線部の数詞を下の語群の単語と入れ替えよ。

- Մա ռ՝ր կարգն է:                                        ここは（劇場の）何列目ですか。
- Ութերորդ:   8列目です。
- Իսկ ռ՝ր տեղն է:                                        で、何番目の席ですか。
- Քսանմեկերորդ:                                       21番目です。

2行目の数詞：1、2、3、4、5、6、7、10

4行目の数詞：12、14、16、18、23、25、29、31

### ・分数、倍数など

分数は、分子を基数詞、分母を序数詞で表現する。

例：3分の2   երկու երրորդ

- 5 分の 1    մեկ հինգերորդ  
 2 分の 1    մեկ երկրորդ = կես  
 4 分の 1    մեկ չորրորդ = քառորդ

\* 倍数は、基数詞に「倍」を意味する語 **անգամ** [ank'am] を続ける。

- 例：6 倍    վեց անգամ  
 10 倍    տաս անգամ

\* 分配を表す「～ずつ」や、概数を表す「～台」は、基数詞に語尾-ական を付ける。

- 例：8 ずつ    ութական  
 20 台    քսանական

\* 小数は、ամբողջ + 小数点以下の桁ごとの数 + 小数点以下何桁かを示す表現で表す。なお、小数点はコンマで表すので注意。

- 例：0,2    զրո ամբողջ երկու տասնորդական  
 2,005    երկու ամբողջ հինգ հազարերորդական

#### ・名詞の与格

アルメニア語の名詞の与格形は、基本的に属格形に後置冠詞を付けたものである。(そのため、文法学者によっては、与格を独立した格と認定していない。) 第6～8課で取り上げた属格形の中、いくつかを事例にとると以下のようなものになる。

例：主格形	属格形	与格形
Արամ	Արամի	Արամին
որդի	որդու	որդուն
մանուկ	մանկան	մանկանը
մայր	մոր	մորը
կին	կնոջ	կնոջը

\* 授与動詞の間接目的語となるのを始め、与格要求動詞の補語となり、日本語の格助詞「に」に相当することが多いが、時には日本語の格の感覚とずれていることもあるので、動詞を覚える際に何格を取るかも合わせて暗記する必要がある。

- 例：授与動詞 տալ,ասել (言う), բերել (持ってくる), հրամայել (命令する), վաճառել (売る), վճարել (支払う)



与格要求動詞 լսել (聞く) , հավատալ (信じる) , մոտենալ (近づく) , նայել (眺める) , ներել (許す) , նմանվել (似る) , սպասել (待つ) , օգնել [ok'nel] (助ける)

\*場所を表す後置詞、特に վրա が省略された場合、結びつく名詞の属格に後置冠詞を付けるため、結果的に与格で場所を表示することが出来る。

Նկարը պատին է: 絵は壁に掛かっている。

\*また、与格が動作の行われる時間を示すことがある。

Ամռանը եղանակը տաք է: 夏は気候が暑い。

・時刻、日付

時刻の正式な言い方では、30分までと30分以降とで表現が変わる。

例: Ժամը մեկն է: 1時です。←「時」にあたる語の方が数詞より先に来る。また、どちらの語にも後置冠詞が付いていることに注意。

Ժամը երկուսն անց է քսան րոպե: 2時20分です。← անց は「過ぎた」の意。時刻の表示では、2は երկուս となる点に注意。なお、Ժամը と րոպե は省略可。また、15分は քառորդ、30分は կես とも言うが、よく使われるのは կես の方である。

Ժամը չորսին (չորսից) տաս րոպե է պակաս: 3時50分です。← պակաս は「足りない」の意。実際の時刻より先の時刻を表すが、その時数詞が与格になっていることに注意。

\*一方、動作が行われる時間を表す場合には、時刻の表現から繫辞を取り除いて、30分までは最後の語を与格にするが、30分以降は数詞に付いている与格を、時間を表す与格とみなす。

例: Գնում եմ դասի ժամը տասին: 講義に10時に行く。

Գնում եմ դասի ինն անց կեսին: 講義に9時半に行く。

Գնում եմ դասի մեկին տասնհինգ պակաս: 講義に12時45分に行く。

\*アルメニア語の曜日の名称は以下のようなになる。

月曜日: երկուշաբթի [yerkushap'ti]	金曜日: ուրբաթ [urp'at']
火曜日: երեքշաբթի	土曜日: շաբաթ [shap'at']
水曜日: չորեքշաբթի	日曜日: կիրակի
木曜日: հինգշաբթի	

曜日の語の後には **օրը** が省略されているので、格変化させない。

\* 日付に関しては、東アルメニア語では日本語と同じように「年、月、日」の順番に並べる。年号は、数詞の後に **թվական** を付ける。(書くときには、**թ.** と略記する。) 月の名は以下の通り。

1月 : <b>հունվար</b>	7月 : <b>հուլիս</b>
2月 : <b>փետրվար</b>	8月 : <b>օգոստոս</b>
3月 : <b>մարտ</b>	9月 : <b>սեպտեմբեր</b>
4月 : <b>ապրիլ</b>	10月 : <b>հոկտեմբեր</b>
5月 : <b>մայիս</b>	11月 : <b>նոյեմբեր</b>
6月 : <b>հունիս</b>	12月 : <b>դեկտեմբեր</b>

なお、年月日の間は属格にしてつなぐ。動作の行われる年月日の場合には最後を与格にする。

例 : 2013 年 7 月 7 日 : 2013 **թվականանի հուլիսի 7 (օրը)**

2013 年 7 月 7 日に : 2013 **թ. հուլիսի 7-ին**

練習 2 : 例にならって、下線部の時刻を下の語群の単語と入れ替えよ。

- ժամը **քանի՞սն է** : 何時ですか。←時刻を尋ねる際 **քանի՞** は **քանի՞ս** に。
- ժամը **երկուսն է** : 2 時です。

時刻 : 1.15, 2.25, 3.45, 4.55, 5.10, 6.20, 7.30, 8.40, 9.50, 10.30, 11.25, 12.05

練習 3 : 例にならって、下線部の時刻を下の語群の単語と入れ替えよ。

- ժամը **քանի՞սին ես գնում դասի** : 何時に授業に行くの ?
- ժամը **ուրթին** : 8 時だよ。
- ժամը **քանի՞սին ես տուն գալիս** : 何時に家に戻るの ?
- **Երկուսն անց կեսին** : 2 時半に。

2 行目の時刻 : 6.50, 7.40, 8.30, 9.20, 10.10

4 行目の時刻 : 12.55, 1.45, 2.35, 3.25, 4.15

## 第 13 課 活動体の対格、動詞の未来形と未完了過去形

### ・活動体の対格

アルメニア語の対格は、名詞が活動体（人）か不活動体（物）かによって形が変わる。不活動体の対格が主格と一致することは、第 7 課で述べた。一方、**活動体の対格は与格と一致する。**

例文：Միրգ սիրո՞ւմ ես: 果物は好き？

Աշոտին սիրում ես: アショトは好き？

\* 第 7 課では方向対格について説明したが、時間を表す表現を対格にすると期間を表す副詞となる。

例文：Մենք հաճախում ենք դպրոց յոթ տարի: 私たちは学校に 7 年間通っている。

\* 度量衡の単位の対格も副詞化する。

例文：Այս մեքենան (մեկ) ժամում անցնում է ութսուն կիլոմետր: この車は時速 80 キロで走る。

練習 4：例にならって、下線部の名詞を下の語群の単語と入れ替えよ。その際活動体か不活動体かに注意すること。

Արամը սիրում է թեյ: アラムはお茶が好きだ。

Արամը սիրում է Աննային: アラムはアンナが好きだ。

単語：սուրճ (コーヒー), Լուսինե, տանձ, Անուշ, այս գիրքը, այդ աղջիկը, կաթ, իր մայրը, գինի, իր քույրը, իր հայրենիքը (自分の祖国)

### ・動詞の未来形

アルメニア語の動詞の時制には、これまで習った現在の他に、未来、未完了過去、完了過去、単純過去、大過去、過去未来があり、全部で 7 つの時制がある。このうち、未来形は、

**不定詞の属格形 + 繫辞 լինել の現在変化**

によって得られる。特に、予定や近い未来の動作を表すのに使われる。

例：գրել の属格形は գրելու、կարդալ の属格形 կարդալու となる。ここでは、գրել の未来形を示す。

ես գրելու եմ

մենք գրելու ենք

դու գրելու ես

դուք գրելու եք

նա գրելու է

նրանք գրելու են

\* 否定形の作り方は、現在形と同じ。

չեմ գրելու

չենք գրելու

չես գրելու

չեք գրելու

չի գրելու

չեն գրելու

練習 1 : 次の文章を未来形に書き換えよ。

- ① Մենք հանդիպում ենք մեր ընկերոջը:
- ② Աշակերտը թարգմանում է բանաստեղծությունը:
- ③ Հայրը և որդին գնում են տուն:
- ④ Դուք քննություն եք հանձնում:
- ⑤ Ես հանգստանում եմ օգոստոսին:
- ⑥ Դու հեռախոսով չես խոսում:

・動詞の未完了過去形

未完了過去形は、過去の習慣や状態、過去のある瞬間や一期間継続した動作を表す。未完了過去形を習得するには、まず繫辞の լինել の未完了過去形の人称変化を覚える必要がある。現在形と同じように補語に լավ を加えて変化表を掲げる。

ես լավ էի

մենք լավ էինք

դու լավ էիր

դուք լավ էիք

նա լավ էր

նրանք լավ էին

すべての人称で է が使われている点に注意。補語が名詞や形容詞の場合の否定形は、現在形と同様である。

ես լավ չէի

մենք լավ չէինք

դու լավ չէիր

դուք լավ չէիք

նա լավ չէր

նրանք լավ չէին

\* 一方、一般動詞の未完了過去形は、

動詞の進行分詞 + լինել の未完了過去の人称変化

によって得られる。ここでは、գրել の未完了過去形を示す。

ես գրում էի

մենք գրում էինք

դու գրում էիր

դուք գրում էիք

նա գրում էր

նրանք գրում էին

\* 否定形では語順が変わる点も、現在形と同じ。ただし、三人称単数形は肯定形でも否定形でも変わらない。

Ես չեի գրում

մենք չեինք գրում

դու չեիր գրում

դուք չեիք գրում

նա չէր գրում

նրանք չեինք գրում

練習 2 : 次の文章の空欄に適切な繋辞の未完了過去の人称変化を入れよ。

- ① Մենք լավ \_\_\_\_\_:
- ② Նա լավ \_\_\_\_\_:
- ③ Դու լավ \_\_\_\_\_:
- ④ Նրանք լավ \_\_\_\_\_:
- ⑤ Դուք լավ \_\_\_\_\_:
- ⑥ Ես լավ \_\_\_\_\_:

練習 3 : 次の動詞を未完了過去形に変化させよ。

սովորել, ուտել, կարդալ, գնալ, մնալ

練習 4 : 練習 3 の動詞を使って未完了過去形の否定形を作ること。

## 第 14 課 名詞の奪格、形容詞と副詞

### ・名詞の奪格

奪格形は-g または-ից という語尾を持つが、その作り方は属格形のパターンによって異なる。属格形に-g を付けるのは、基本変化、n<sub>1</sub> 変化、վա 変化、n 変化、n<sub>2</sub> 変化である。

例：	主格形	属格形	奪格形
	Երևան	Երևանի	Երևանից
	տղա	տղայի	տղայից
	գիրք	գրքի	գրքից
	որդի	որդու	որդուց
	մարդ	մարդու	մարդուց
	օր	օրվա	օրվանից
	տարի	տարվա	տարվանից
	հայր	հոր	հորից
	կին	կնոջ	կնոջից

これに対し、ա 変化、ան 変化では、奪格形は主格形に-ից を付ける。

例：	主格形	属格形	奪格形
	ազգություն	ազգության	ազգությունից
	տուն	տան	տնից ← 幹母音が脱落することに注意
	լեռ	լեռան	լեռից

なお、最近では、վա 変化もこのパターンで変化させることが増え、օր なら、օրից という奪格形もよく見かける。(ただし、տարի だけは、n<sub>1</sub> 変化からの類推で տարուց となる。)

\* 奪格は、動作の出発点を表すほか、離脱動詞の動作対象や奪格要求動詞の補語（多くが、感情を表す動詞の原因を表す）となる。

例文：Ես Տոկիոյից եմ։ 私は東京出身です。

Երեխան ցավից լաց էր լինում։ その子は、痛さのあまり、泣いていた。

例：離脱動詞 վերցնել (取る), ստանալ (受け取る), գողանալ (盗む), առնել (原義は「得る」だが、普通は「買う」 գնել と同じ意味で使う)

奪格要求動詞 վախենալ (～を恐れる), ամաչել (～を恥じる), հոգնել [hok'nel] (～にうんざりする), տարբերվել (～と異なる)

\* 数量表現と共に用いて、「～のうち」を表す。

例：սրանից մեկը (そのうちの一つ), գրքերիցդ մեկը (君の本のうちの1冊)

Իմ քույրերից երկուսը սովորում են դպրոցում: 私の姉妹のうち二人が学校で学んでいる。

\*時間を表す語の奪格は、未来形と共に用いると「～後に」という意味になる。

例文 : Հինգ օրից գնալու եմ Մոսկվա: 5日後にモスクワへ行く。

これに対し、現在形と共に用いると、「～から」という意味になる。

例文 : Երբևանից եք այստեղ ապրում: いつからこちらにお住まいですか。

Անցյալ տարվանից: 去年からです。

なお、英語と違い、動詞を完了形にしない点に注意。

\*奪格要求の前後置詞がある。本課では、「～を除いて」を意味する前置詞 բացիと、「～の後で」「～の前に」を意味する後置詞 հետո, առաջ を取り上げる。

Բացի հայերենից գիտեմ նաև ռուսերեն: 私は、アルメニア語以外ではロシア語も知っている。

Դասից հետո գնում եմ տուն: 私は授業の後は帰宅する。

Ճաշից առաջ ձեռքերը լվանում եմ: 食事の前には手を洗う。

練習 1 : 例にならって、下線部の動詞と言語名を下の語群の単語と入れ替えよ。

Բացի անգլերենից ուրիշ լեզու չգիտեմ:

言語名 : Ֆրանսերեն, իսպաներեն, պարսկերեն, հունարեն, չինարեն,

ճապոներեն

動詞 : սովորել, հասկանալ, խոսել, իմանալ, գիտենալ, սովորել

#### ・形容詞と副詞

近代アルメニア語では、形容詞の格変化が消滅したため、名詞の前に置くだけでよい。また、後ろの名詞を省略した場合には、形容詞に後置冠詞を付けて名詞化し、格語尾を付けることも出来る。(この場合の格語尾は、基本変化のものとなる。)

例 : լավ գիրք (良い本)、շատ գրքեր (多くの本)、լավը (良い物、こと)、շատերից մեկը (多くの物のうちの一つ)

\*一方、副詞は形容詞に副詞化語尾 -ապես, -ուպեն, -ովին を付けることで得られるが、現在はこの語尾を省略して形容詞をそのまま副詞として転用する例が多い。

例 : Արմանը շատ արագ է խոսում: アラムはとても早く話す。

練習 2 : 例にならって、下線部の形容詞と名詞を下の語群の単語と入れ替えよ。

Մա հին ամսագիր է, իսկ դա՝ նոր:  これは古い月刊誌で、あれは新しいのだ。

形容詞 : մեծ – փոքր (大きい、小さい) , սև - կարմիր (黒い、赤い) , դժվար – հեշտ (難しい、易しい) , երկար – կարճ (長い、短い) , լավ – վատ (良い、悪い) , շատ – քիչ (多い、少ない) , ճիշտ – սխալ (正確な、間違った)

名詞 : սենյակ (部屋) , մատիտ, հարց, նամակ (手紙) , նկար, հյուր (ジュース) , պատասխան (答え)



## 第 15 課 形容詞と副詞の比較、名詞の具格

### ・形容詞と副詞の比較級

アルメニア語の比較級の作り方は、形容詞や副詞の前に「ますます、一層」を意味する副詞 **ավելի** を置く。例外変化はない。

例：原級            比較級

**մեծ**            **ավելի մեծ** ←人について用いると「年長の」という意味になる。

**փոքր**          **ավելի փոքր** ←同じく、「年少の」という意味になる。

**երկար**        **ավելի երկար**

**շատ**          **ավելի շատ**

一方、「大して～ない」を表す劣等比較を作る場合には、「足りない」を意味する副詞 **պակաս** を使うが、用例は少ない。

例：    原級            比較級

**մեծ**          **պակաս մեծ**

**երկար**       **պակաս երկար**

\* 比較の対象の表し方は、西欧語風な

**比較級, քան 比較の対象**

という構文もあるが、実際には日本語に近い

**比較の対象の奪格 + (ավելի) 形容詞・副詞**

の方が普通である。この構文では **ավելի** は不要だが、わざわざ加えるアルメニア人は多い。

例文：Արամը ավելի մեծ է, քան Աշոտը: アラムはアショトより年上だ。

= Արամը Աշոտից մեծ է:

\* 最上級は、形容詞・副詞に接頭辞 **ամենա**-または接尾辞 **-ագույն** を付けることによって得られるが、接頭辞を付ける方が一般的である。

例：    原級            最上級

**մեծ**            **ամենամեծ**

**երկար**        **ամենաերկար**

**շատ**            **ամենաշատ**

**լավ**             **լավագույն**

\* 「～の中で」のように、比較の範囲を限定する場合は、

**比較の範囲を限定する語の属格 + 最上級**

という構文になる。

例文 : Սոնան ձեր դասարանի ամենախելացի աղջիկն է: ソナは君たちの教室で一番優秀な女の子だ。

Նեղոսը աշխարհի ամենաերկար գետն է: ナイルは世界で一番長い川だ。

\* ամենից (何よりも) + 比較級で、実質的な最上級を表すことが出来る。

Այս գիրքը ամենից փոքր է: この本は最小だ。

練習 1 : 例にならって、下線部の形容詞と名詞を下の語群の単語と入れ替えよ。

Սա դրանից ավելի հին ամսագիր է: これは、あれより古い月刊誌だ。

形容詞 : մեծ, դժվար, երկար, լավ, քիչ, ճիշտ, բարձր [barts'ər] (高い)

名詞 : սենյակ, հարց, նամակ, նկար, հյուր, պատասխան, շենք (建物)

#### ・名詞の具格

具格形は-nվ という語尾を持つが、その作り方は、奪格の場合と同様、属格形のパターンによって異なる。属格形に-nվ を付けるのは、基本変化、nվ 変化、n 変化、nջ 変化である。ただし、その際に属格形の語尾-ի を落としたうえで具格形の語尾を付ける点に注意。

例 :	主格形	属格形	奪格形
	Երևան	Երևանի	Երևանով
	տղայի	տղայի	տղայով
	գիրք	գրքի	գրքով
	որդի	որդու	որդով, որդիով
	մարդի	մարդու	մարդով
	հայր	հոր	հորով
	կին	կնոջ	կնոջով

これに対し、վաա 変化、ան 変化では、奪格形は主格形に-nվ を付ける。

例 :	主格形	属格形	奪格形
	օր	օրվա	օրով
	ազգություն	ազգության	ազգությամբ
	տուն	տան	տնով ← 幹母音が脱落することに注意
	լեռ	լեռան	լեռով

ただし、抽象名詞化語尾-ություն ならびに動作名詞を表す語尾-ում を持つ名詞は、文章語では古典語の具格形が好んで用いられる。

例 :	主格形	属格形	奪格形
-----	-----	-----	-----

շարժում (動き、運動)	շարժման	շարժմամբ
ազգություն	ազգության	ազգությամբ

\* 具格は、手段や地名であれば経由地を表すほか、具格要求動詞の補語（多くが、従事や感情移入を表す動詞の対象）となる。

例文：Հացը կտրում են դանակով։ パンはナイフで切る。

Ես Վիեննայով եմ թռչելու Տոկիո։ 私はウィーン経由で東京へ飛ぶ。

例：գրադվել (～に従事する), լցնել (～で満たす), հետաքրքրվել (～に興味を持つ), հիանալ (～を崇める), հպարտանալ (～を誇りに思う)

\* 具格が期間を表す。(後で扱う完了過去形や単純過去形と用いられることが多い。) 単独で使われる際は、対格よりも期間であることが明示的になる。

例：Ես եկել եմ Երևան մի տարով։ 私はエレヴァンに1年間いる。

\* 動作が行われる範囲を示す。

例：Փողոցով անցնում էր մի անձանոթ։ 通りを見知らぬ者が横切っていた。

\* 具格が動作の様態を説明する副詞として使われる。

例：Նա իր տունը նկարագրում է հաճույքով։ その人は喜んで自分の家について説明する。

\* なお、活動体名詞の具格では「～と一緒に」という意味にはならない。その場合には、属格+後置詞 հետ を用いる。

例：Նա այնտեղ էր զբոսնում իր կնոջ հետ։ 彼は自分の妻とあそこを散歩していた。

練習2：例にならって、下線部の動詞と名詞・代名詞を下語群の単語と入れ替えよ。なお、奪格や方向対格、さらには具格にも注意すること。

Ես տնից գնում եմ կայարան ավտոբուսով։ 私は家から駅へバスで行く。

- ① Մենք, կայարան, հասնել, տուն, մետրո
- ② Դուք, ճաշարան, գնալ, դասի, ոտք
- ③ Ուսանողը, Հայաստան, գալ, Ֆրանսիա, ինքնաթիռ
- ④ Դու, տուն, գնալ, օդանավակայան, ավտոմեքենա
- ⑤ Աշոտի մայրը, Երևան, գնալ, Մոսկվա, գնացք
- ⑥ Ընկերներս, քաղաք, հասնել, գյուղ, երթուղային տաքսի
- ⑦ Եղբայրդ, հյուրանոց, մեկնել, համալսարան, տրամվայ

## 第 16 課 複数名詞と人称・指示代名詞の格変化、使役語尾

### ・複数名詞の格変化

現代のアルメニア語では、複数特有の格変化は衰退し、名詞の複数形に格語尾を付けることによってられる。この場合の格語尾は、基本変化のものとなる。

例：単数主格形	複数主格形	複数属格形
գիրք	գրքեր	գրքերի
որդի	որդիներ	որդիների
տուն	տներ	տների
օր	օրեր	օրերի
լեռ	լեռներ	լեռների
մայր	մայրեր	մայրերի
քույր	քույրեր	քույրերի

単数属格形には様々なパターンがあったが、複数属格形は単純化されている。なお、複数形が全く不規則なものは、複数形の格変化も不規則となる。代表例だけ挙げれば、

単数主格形	複数主格形	複数属格形
մարդ	մարդիկ	մարդկանց ←իが脱落する。
կին	կանայք	կանանց
անձ	անձինք	անձանց

のようになる。なお、複数与格形・対格形は複数属格形と全く同じで、奪格形、処格形は属格形に単数形の基本語尾を付ければよい。また、人名に「～の家族を意味する」語尾-ենք が付いた場合 (Լևոնենք など) もこれに準ずる。

### ・人称代名詞の格変化

人称代名詞の 1・2 人称では、属格形と与格形が異なっている点が特徴的である。また、人称代名詞は活動体扱いのため、与格形と対格形は同じである。

主格形	属格形	与・対格形	奪格形	具格形
ես	իմ	ինձ	ինձնից, ինձանից	ինձնով, ինձով
դու	քո	քեզ	քեզ(ն)ից, քեզանից	քեզ(ն)ով, քեզանով
նա	նրա	նրան	նրանից	նրանով
ինքը	իր	իրեն	իրենից	իրենով
մենք	մեր	մեզ	մեզնից, մեզանից	մեզնով, մեզանով
դուք	ձեր	ձեզ	ձեզ(ն)ից, ձեզանից	ձեզ(ն)ով, ձեզանով
նրանք	նրանց	նրանց	նրանցից	նրանցով
իրենք	իրենց	իրենց	իրենցից	իրենցով

1・2人称の与・対格のうち、1人称単数のみ語尾が & になっていることに注意。また、処格は理論的には存在するが、滅多に使われない。

練習1：次の文章の空欄に、適当な人称代名詞を補うこと。

- ① Ես և եղբայրներս նման ենք \_\_\_\_\_ մայրիկին։ 私と兄は母に似ている。
- ② Երեխաները այստեղ են բերում \_\_\_\_\_ սիրելի խաղալիքները։ 子供たちは、ここに自分たちの大好きな玩具を持ってきた。
- ③ Կարո՞ղ եք \_\_\_\_\_ ցույց տալ այդ մատանին։ その指輪を見せてくれますか。
- ④ Իմ եղբայրը իր մեքենան այսօր \_\_\_\_\_ տալիս է։ 私の弟は今日車を我々に渡す。
- ⑤ Ես \_\_\_\_\_ տալու եմ այդ գրիչը։ 君にあのペンをやろう。

・ 1・2人称の代名詞と後置詞

属格要求の後置詞のうち、վրա, մոտ, հետ, համար, նման (~に似て) は、1・2人称の代名詞とだけはその与格と結びつく。(ただし、最近この規則を守らないアルメニア人がとても多い。)

例：ինձ վրա, քեզ մոտ, մեզ հետ, ձեզ համար

練習2：次の文章の括弧内の人称代名詞を適当な形に直すこと。

- ① Ես (դուք) համար գեղեցիկ ծաղիկներ եմ բերելու։
- ② Ո՞ւմ համար են այս գրքերը։ (Դու) համար։
- ③ Ես ապրում եմ Երևանում։ Իմ ծնողները ապրում են գյուղում։ Նրանք հաճախ են նամակ գրում (ես)։
- ④ Իսկ քույրս (ես) մոտ գալու է հունիսին։
- ⑤ Նա չի ուզում (մենք) հետ այդ մասին խոսել։
- ⑥ Դուք (նա) հետ հեռախոսով եք խոսելու։

・ 指示代名詞の格変化

指示代名詞の格変化は以下のようになるが、対格に関しては、指し示す名詞が活動体か不活動体かによって一致する格が変わる点に注意。

主格形	属格形	与格形	対格形(人)	対格形(物)	奪格形	具格形	処格形
սա	սրա	սրան	սրան	սա	սրանից	սրանով	սրանում
դա	դրա	դրան	դրան	դա	դրանից	դրանով	դրանում
նա	նրա	նրան	նրան	նա	նրանից	նրանով	նրանում

主格形	属格形	与格形	对格形(人)	对格形(物)	奪格形	具格形	処格形
սրանք	սրանց	սրանց	սրանց	սրանք	սրանցից	սրանցով	սրանցում
ղրանք	ղրանց	ղրանց	ղրանց	ղրանք	ղրանցից	ղրանցով	ղրանցում
նրանք	նրանց	նրանց	նրանց	նրանք	նրանցից	նրանցով	նրանցում

• 使役語尾 **ցն**

アルメニア語には使役語尾 **ցն** という接尾辞があり、動詞の語幹に付けて自動詞を他動詞化したり、活動体を目的語にとって使役動詞のように用いたりする。なお、元の動詞の原形の語尾によって、語幹と接尾辞の付け方が変わる。

例：他動詞化の接尾辞として

- սովորել (学ぶ) → սովորեցնել (教える)
- հագնել [hak'nel] (着る) → հագցնել (着せる)
- կպչել (くつつく) → կպցնել (くつつける)
- մոտենալ (近づく) → մոտեցնել (近づける)
- մեծանալ (大きくなる) → մեծացնել (増やす)

使役動詞として

- լսել (聞く) → լսեցնել (聞かせる)
- հասկանալ (理解する) → հասկացնել (理解させる)

\*使役動詞として使う場合は、動作を強制する相手を与格にする。

例文：Երեխան կաթ է խմում։ 子供が牛乳を飲む。

Տատիկը երեխային կաթ է խմեցնում։ お祖母さんは、子供に牛乳を飲ませる。なお、アルメニア語にも西欧語のような独立した使役動詞として **տալ** がある。

例文：Պապիկը երեխային թերթ բերել է տալիս։ お祖父さんは、子供に新聞を持って来させる。

練習 3：次の文章の括弧内の動詞を適当な形に直すこと。

- ① Մայրը (հագնել) որդուն և տանում է մանկապարտեզ։
- ② Աշակերտը ուզում է (բարձրանալ) ձեռքը։
- ③ Ուսանողի պատասխանները բոլորին (զարմանալ) են։
- ④ Կրկեսում ծաղրածուն (ծիծաղել) է բոլորին։
- ⑤ Հայրը (սովորել) է որդուն հեծանիվ քշել։

մանկապարտեզ : 幼稚園、բարձրանալ : 上がる、պատասխան : 返答、բոլոր : 皆、զարմանալ : 驚く、կրկես : サーカス、ծաղրածու : ピエロ、ծիծաղել : 笑う、հիշել : 覚える、հեծանիվ քշել : 自転車運転する

## 第 17 課 動詞の完了過去形

### ・完了過去形

完了過去形は、すでに終わった動作、あるいは話者とは無関係の過去の出来事を表す。完了過去形は、

**完了分詞+լինել** の現在形の人称変化

によって得られる。完了分詞の作り方は、原形の語尾によっていくつかのパターンがある。

1. ել 動詞の場合は、原形と完了分詞は同じである。

例：գրել → գրել

2. ալ 動詞の場合、語尾を-ացել に変える。

例：կարդալ → կարդացել

3. 語幹と語尾の間に意味のない接辞 ն, չ が挟まれている場合は、それを取る。

例：տեսնել (見る) → տեսել, կորչել (消える) → կորել

このパターンに属す動詞は 20 語位しかなく、日常生活でよく使うものは、上記の例以外では次のような語がある。

անցնել (通り過ぎる), առնել (買う), գտնել (見つける), ելնել (出る), ընկնել (落ちる), թողնել (許す), իջնել ([ich'nel] 降りる), հագնել (着る), հասնել (着く), մեռնել (死ぬ), մտնել (入る), դիպչել (触れる), թռչել (飛ぶ), կպչել (くっつく), սառչել (凍る), փախչել (逃げる)

4. 動詞の語尾が -ենալ, -անալ になっている場合は、それぞれ -եցել, -ացել になる。

例：մոտենալ (近づく) → մոտեցել, հասկանալ (理解する) → հասկացել

5. 語幹と語尾の間に使役語尾 ցն が挟まれている場合は、それを ցր に変える。

例：բարձրացնել (上げる、登らせる) → բարձրացրել, վախեցնել (脅す) → վախեցրել, կորցնել (失くす) → կորցրել

6. 語幹が大きく変わるものがある。

例：դնել (置く) → դրել, լինել → եղել, տանել (持ち運ぶ) → տարել, ուտել (食べる) → կերել, դառնալ (~になる) → դարձել, վերադառնալ (帰る) → վերադարձել, գալ → եկել, տալ → տվել, անել (する) → արել, լալ (泣く)

→ լացել

\* 人称変化については、代表例として գրել の完了過去形を示す。

ես գրել եմ	մենք գրել ենք
դու գրել ես	դուք գրել եք
նա գրել է	նրանք գրել են

\* 否定形の作り方も、現在形と同じ。

չեմ գրել	չենք գրել
չես գրել	չեք գրել
չի գրել	չեն գրել

\* 複合動詞の際には、非動詞部と動詞の間に լինել の現在形の人称変化が割って入るのは、現在形の場合と同じ。ここでは、完了分詞の語幹が不規則な վեր կենալ (起き上がる) を例に挙げる。

ես վեր եմ կացել	մենք վեր ենք կացել
դու վեր ես կացել	դուք վեր եք կացել
նա վեր է կացել	նրանք վեր են կացել

・完了過去の用法としては、動作が終わったか、またはその経験があるかどうかを問題にする。(これは、英語の現在完了形の完了、経験用法と重なっている。) この場合、たいてい արդեն (既に)、դեռ (まだ)、դեռևս [derryevos] (いまだかつて)、երբևէ (かつて)、երբեք (一度も) などの副詞が入る。

例文 : Ես այս գիրքը արդեն կարդացել եմ: 私はこの本は既に読んだ。

Դու այդ մասին դեռ չե՞ս լսել: 君はこれについてまだ聞いていない?

Երբևէ եղե՞լ ես Փարիզում: パリに行ったことがある?

Երբեք չեմ տեսել Փարիզը: パリは一度も見物したことない。

・また、もう終わった動作ということから、話者が直接見聞いたことのない歴史的な過去を表す。

例文 : Իմ եղբայրը ծնվել է 1964 թվականին: 私の兄は1964年に生まれた。

Հայերը քրիստոնեությունն ընդունել են չորրորդ դարում: アルメニア人は4世紀にキリスト教を受け入れた。

なお、現在に続く動作は、アルメニア語では現在形で表すことは既に述べた通り。



例文 : Նա ապրում է Երևանում 1990 թվից: その人は 1990 年からエレヴァンに住んでいる。

練習 1 : 次の動詞を完了過去形にして、人称変化させよ。

- ① բերել, սիրել, ուզել, նստել, կանգնել, վազել
- ② կարդալ, գնալ, երևալ, ժպտալ, մնալ
- ③ տեսնել, կորչել, ելնել, թռչել, գտնել, իջնել
- ④ մոտենալ, հասկանալ, վախենալ, ծանոթանալ, ունենալ, ստանալ
- ⑤ բարձրացնել, վախեցնել, կորցնել, վազեցնել, մեծացնել, հասցնել
- ⑥ դնել, լինել, տանել, ուտել, դառնալ, գալ, տալ

## 第18課 命令法

印欧語族では、話者がある動作をどのようにとらえるかによって、動詞の変化パターンが異なる。これを法と呼ぶが、アルメニア語の場合、直説法、命令法、接続法、条件法、義務法の5つがあり、これまで学んできた動詞の変化は、すべて直説法に属す。本課では、動作を相手に強く希望する命令法について学ぶ。

### ・命令法の人称

命令法は、相手に対する強い希望を表すため、必然的に二人称単数形と複数形（複数の相手ならびに敬称を使うような一人の相手）しかない。命令法の語幹に、原則として、それぞれ語尾  $-ի՛ր$ 、 $-ե՛ք$  を付ける。（語尾のアクセント母音に感嘆符を付ける点に注意。なお、口語では単数形語尾  $-ի՛ր$  の  $ր$  は発音しないのが普通。）また、命令法の語幹の作り方は、完了分詞の作り方と似ている。

1. ել 動詞の場合は、原形の語尾を取れば語幹になる。

例：原形 単数形 複数形

գրել գրի՛ր գրե՛ք ←գրեցե՛ք も正しい言い方だが、今は用いられない。

2. ալ 動詞の場合、単数形は原形の語尾を取って語尾  $-ա՛$  を付け、複数形は語尾を  $-աց$  に変えたうえで、語尾  $-ե՛ք$  を付ける。

例：原形 単数形 複数形

կարդալ կարդա՛ կարդացե՛ք

3. 語幹と語尾の間に意味のない接辞  $ւ, չ$  が挟まれている場合は、それを取って、命令法の標準的な語尾を付ける。

例：原形 単数形 複数形

հասնել հասի՛ր հասե՛ք

կորչել կորի՛ր կորե՛ք

このパターンに属するのは第17課で挙げた動詞になるが、そのうち առնել, ելնել, թողնել, տեսնել は後述するように単数形が不規則になるので注意。

4. 動詞の語尾が  $-ենալ$ 、 $-անալ$  になっている場合は、それぞれ  $-եց$ 、 $-աց$  に換えたうえで、命令法の標準的な語尾を付ける。

例：原形 単数形 複数形

մոտենալ մոտեցի՛ր մոտեցե՛ք

հասկանալ հասկացի՛ր հասկացե՛ք

5. 語幹と語尾の間に使役語尾 *gn* が挟まれている場合は、それを *gp* に変える。  
ただし、単数形の語尾が *-n'ı* になる点に注意。

例：原形	単数形	複数形
բարձրացնել	բարձրացրո՛ւ	բարձրացրե՛ք
վախեցնել	վախեցրո՛ւ	վախեցրե՛ք
կորցնել	կորցրո՛ւ	կորցրե՛ք

6. 語幹が大きく変わるものがある。特に単数形が語尾も含めて不規則になることがある。

例：原形	単数形	複数形	
դնել	դի՛ր	դրե՛ք	←単数形は全く不規則。
լինել	եղի՛ր	եղե՛ք	
տանել	տա՛ր	տարե՛ք	
ուտել	կե՛ր	կերե՛ք	
դառնալ	դարձի՛ր	դարձե՛ք	← վերադառնալ も同じ変化。
գալ	ե՛կ, արի՛	եկե՛ք	←単数形は全く不規則な արի' の方が普通。
տալ	տո՛ւր	տվե՛ք	←単数形は全く不規則。
անել	արա՛	արե՛ք	←単数形は全く不規則。
լալ	լա՛ց	լացե՛ք	
ասել	ասա՛	ասացե՛ք	言う←命令法は ալ 動詞と同じ変化。
բերել	բե՛ր	բերե՛ք	持ってくる←単数形が語幹のみとなる。
առնել	ա՛ռ	առե՛ք	←以下、単数形が語幹のみとなる。
ելնել	ե՛լ	ելե՛ք	
թողնել	թո՛ղ	թողե՛ք	
տեսնել	տե՛ս	տեսե՛ք	
բանալ	բա՛ց	բացե՛ք	開ける、開く
լվանալ / Լվալ	լվա՛	լվացե՛ք	洗う←単数形のみ ալ 動詞と同じ変化。

なお、*ասել* の複数形には *ասե՛ք* という形もあるが、後の課で出てくる接続法現在と混同したものとされる。

7. 複合動詞の場合には、動詞部を命令法にするが、アクセントが非動詞部に移る点に注意。

例：	原形	単数形	複数形
	թույլ տալ	թո՛ւյլ տուր	թո՛ւյլ տվեք
不規則：	վեր կենալ	վե՛ր կաց	վե՛ր կացեք

\*一方、禁止の作り方はいくつかあるが、命令法の前に小辞 մի՛ を置くのが一番簡単なので、これを覚えたい。アクセントが小辞に移動する。

例：原形            単数形            複数形  
գրել            մի՛ գրիր            մի՛ գրեք  
կարդալ        մի՛ կարդա        մի՛ կարդացեք  
թույլ տալ    մի՛ թույլ տուր    մի՛ թույլ տվեք

なお、掲示などでは、動詞の原形に否定の接頭辞 չ を付けて禁止を表すことがよく見られるが、これはロシア語の翻訳借用だとして、規範文法では忌避されている。そのためか、「禁煙」にあたる表示でも、

Չ՞ծխել: Չծխե՛լ:

など、感嘆符を打つ位置が一定していない。

練習 1 : 次の動詞の命令法を作ること。(不規則な変化をする動詞も含まれているので注意。) 合わせて、禁止文も作ること。

- ① բերել, սիրել, ասել, նստել, կանգնել, վազել
- ② կարդալ, գնալ, երևալ, ժպտալ, մնալ, լվանալ
- ③ տեսնել, փախչել, ելնել, թռչել, գտնել, իջնել
- ④ մոտենալ, հասկանալ, վախենալ, ծանոթանալ, ունենալ, ստանալ
- ⑤ բարձրացնել, վախեցնել, հագցնել, հիշեցնել, մեծացնել, հասցնել
- ⑥ դնել, լինել, տանել, ուտել, դառնալ, գալ, տալ, անել

## 第 19 課 前後置詞のまとめ、不定詞句

アルメニア語の前後置詞をここでまとめておく。名詞の何格と結びつくかを正確に覚える必要があるが、アルメニア語の格の感覚は日本語に近いので、むしろ感覚がずれているものを重点的に暗記すると良い。

### ・ 前置詞

առանց (～なしで。属格要求) առանց գրքի

բացի (～を除いて。奪格要求) բացի ինձանից (ինձից)

դեպի (～の方へ。対格要求) դեպի քաղաք (街へ)

մինչև (<時間・空間的に>～までずっと。対格要求) մինչև մահ, մինչև դպրոց

շնորհիվ (～のおかげで。属格、与格要求) շնորհիվ քեզ ←後置詞として使われることもある。

### ・ 後置詞 (一部の後置詞は格変化するので注意)

մասին (～について。属格要求) գրքի մասին

համար (～のために。～にとって。属格要求\*) ուսուցչի համար

համաձայն (～に従って。属格要求) քո խոսքի համաձայն

նկատմամբ (～に関して。属格要求) իմ նկատմամբ

հետ (～と一緒に。属格要求\*) նրա հետ

վրա (～の上に。～に接して。属格要求\*) սեղանի վրա

տակ (～の下に。属格要求) սեղանի տակ

մեջ (～に。～で。属格要求) սենյակի մեջ

մոտ (～の傍に。～の所に。属格要求\*) սեղանի մոտ, գնալ ընկերոջս մոտ

շուրջը (～の周囲に。属格要求) սեղանի շուրջը

առաջ (<空間的に>～の前で。属格要求) դպրոցի առաջ

դիմաց (～の正面に。属格要求) տան դիմաց

ետևում (～の背後に。属格要求) շենքի ետևում

վերև (～の真上に。属格要求/～の上方に。奪格要求) գլխի վերևում, տնից վերև

առաջ (<時間的に>～前に。対格要求) հինգ տարի առաջ

դեմ (～に対して。～に向かって。属格要求) տան դեմ

ներս (～の中に。属格要求) սենյակի ներսը (ներսում)

դուրս (～の外に。～の外へ。奪格要求) սենյակից դուրս

հետո (～の後で。奪格要求/～後に。対格要求) դասից հետո, հինգ տարի

հետո

հակառակ (～に反して。属格、与格要求) իմ կամքին հակառակ (私の意思に反して)

նման (～のように。～に似た。属格要求\*) նետի նման (矢のように)

միջեւ (～の間に。属格要求) գետերի միջեւ

տեղը (～の代わりに。属格要求) քո տեղը

ただし、\*の後置詞は、1・2人称の代名詞は与格となる。

\*なお、場所を表す後置詞は、それ自体を名詞とみなして格変化させることがある。

例文：Սեղանի մոտի արթուր գեղեցիկ է։ 机の側の椅子は綺麗だ。

Սեղանի վրայից գրքերը վերցրո՛ւ։ 机の上から本を取って行って。

#### ・不定詞句

他の印欧語族と同様に、アルメニア語の不定詞も目的語などを伴って句を形成する。さらに、不定詞が格変化することも出来、前後置詞と結びついたり、文を修飾したりする。

1. 不定詞句が名詞として他動詞の目的語となる。

例文：Նա կարողանում է շախմատ խաղալ։ 彼はチェスが出来る。←不定詞句は、好んで「目的語＋動詞」の語順となる。

2. 不定詞に後置冠詞を付けて、文の主語や補語になる。

例文：Ծխելը վնասակար է առողջության համար։ 喫煙は、健康には有害だ。

3. 不定詞の属格形は名詞を修飾できる。

例文：Ես հանգստանալու ժամանակ չունեմ։ 私には休む時間がない。

4. 不定詞句が、与格要求動詞の補語となる。

例文：Նա սպասում է քո գալուն։ その人は、君が来ることを待っている。

5. 属格要求後置詞の համար を省略して、不定詞句の属格形が動作の目的を表す副詞句となる。

例文：Նա գնում է խանութ հաց գնելու։ 彼女はパンを買いに店に行くところだ。

6. 不定詞句の具格が主節と同時並行で行われている動作を表す副詞句となる。

例文：Սենյակ մտնելով՝ նա լույսը վառում է։ 部屋に入る時に、彼が明かりを点ける。

7. 前後置詞と不定詞が結び付いた例

գրելուց առաջ 書く前に

առանց մտածելու 考えもしないで

մինչև գնալը 行くまでに

練習 1 : 次の文章を日本語に訳しなさい。

- ① Լավ գնահատականներ ստանալու համար շատ եմ աշխատում:
- ② Գալուց առաջ խնդրում եմ ինձ զանգի՛ր:
- ③ Նա վազելով գնում էր դասի:
- ④ Աղջիկը ներս է մտնում և բարևելով բոլորին՝ նստում է:
- ⑤ Մենք հանդիպելու ենք մինչև քո Մոսկվա մեկնելը:
- ⑥ Առանց մտածելու չի կարելի խոսել:
- ⑦ Երեխաները սիրում են նկարել:

## 第 20 課 接続詞、同等比較、小辞 էլ

接続詞には、等位接続詞と従属接続詞とがある。等位接続詞は、文法的に同じ性質の語句や文を結びつけるのに対して、従属接続詞は節の先頭について、その節を文の一要素（名詞あるいは副詞として）とする働きがある。

### ・等位接続詞

և (և), ու は並列・順接を表し、「～と」、または「そして」という意味になる。

例文：Ես և Դավիթը գնում ենք համալսարան։ 僕とダヴィトは大学に行く。

իսկ は対比を表し、「一方」という意味になる。

例文：Ես գոհ եմ, իսկ դո՞ւ։ 僕は満足だけど、君は？

բայց, սակայն は逆説を表し、「しかし」という意味になる。

例文：Ես սոված չեմ, բայց շատ ծարավ եմ։ 私は空腹ではないが、大変のどが渴いた。

կամ は任意の選択を表し、「または」という意味になる。

例文：Խմում եմ գինի կամ զարեջուր։ ワインかビールを飲む。

これと紛らわしいのが、թե՞ で、これは排他的な選択を示すため、基本的には疑問文で用いられる。

例文：Ո՞րն ես ավելի շատ սիրում՝ հարիսա թե՞ խաչ։ ハリサとハシュでは、どちらが好き？

\* 相関接続詞として用いられるものとして以下の組み合わせがある。

ե՛ւ A ե՛ւ B, հա՛ւ A հա՛ւ B, թե՛ A թե՛ B は、どれも「A も B も」という意味。

例文：Գերբզրը խոսում է ե՛ւ ռուսերեն ե՛ւ լեհերեն։ ゲヴオルクは、ロシア語もポーランド語も話せる。

կա՛ւ A կա՛ւ B は、「A か B のどちらか」という意味。

例文：Կա՛ւ Կարենը, կա՛ւ ես գալու ենք օդանավակայան։ カレンか私のどちらかが空港に行きます。

ո՛չ A ո՛չ B は、「A も B も・・・ない」という意味。

例文：Ո՛չ Արամն եկել է, ո՛չ Վարդանը։ アラムもヴァルタンも来ていない。

ոչ թե A, այլ B は、「A ではなく、B」という意味。

例文：Կարինեն գնում է ոչ թե թատրոն, այլ տանգարան։ カリネが行くのは、劇場ではなく、博物館だ。

ոչ միայն A, այլև B は、「A だけでなく、B も」

例文：Արմենը ոչ միայն լավ է սովորում, այլև օգնում է դասընկերներին։ アルメンは勉強が出来るだけでなく、級友を助けてもいる。



\* 比較の対象を表す **քան** も等位接続詞である。ここでは、同等比較を表す相関接続詞 **այնքան ... որքան / այնչափ ... որչափ** について扱う。

例文 : **Ես այնքան ուժեղ եմ, որքան իմ եղբայրը:** 私は兄と同じくらい強い。← 「何かに秀でている、出来る」という意味もある

**Նա այնչափ բարձրահասակ չէ, որչափ իր մայրը:** 彼女は母親ほど背が高くない。

練習 1 : 次の文章の空欄に **թե, կամ, իսկ** のうち適当なものを入れなさい。

- ① **Դու նրան կարող ես գտնել տանը \_\_\_\_\_ համալսարանում:**
- ② **Ե՞րբ ես մեկնում քաղաքից՝ այսօր \_\_\_\_\_ վաղը:**
- ③ **Մենք ապրում ենք Երևանում, \_\_\_\_\_ դուք՝ Նյու-Յորքում:**
- ④ **Դու այդ քննությունը կարող ես հանձնել ամռանը \_\_\_\_\_ ձմռանը:**
- ⑤ **Ո՞ր գույնն է քեզ ավելի շատ դուր գալիս՝ կարմիր \_\_\_\_\_ կապույտ:**
- ⑥ **Քույրս ուսուցչուհի է, \_\_\_\_\_ եղբայրս՝ բժիշկ:**

#### ・ 従属接続詞

**որ** は、名詞節を導き、「～ということ」を意味する。(英語の **that** 節。) 一方、**թե** も、名詞節を導くが、元が疑問文だった節を組み込んだり、節の内容に話者が疑いを持っていたりする場合に用いられ、「～かどうか」あるいは「～とかいうこと」を意味する。(英語の **if** 節。) なお、東アルメニア語では、従属接続詞の前、つまり主節との切れ目でコンマを打つ。

例文 : **Գիտեմ, որ նա հիվանդ է:** 彼が病気であることを知っている。

**Նա հարցնում է, թե կարո՞ղ է վաղը գալ:** 彼が、明日来ていいか尋ねている。

**Նա ասում է, թե ինքը տաս տարեկան է:** その子は、自分が 10 才だのと言っている。

ところで、疑問詞の入った疑問文を節として組み込む際にも、**թե** を介して主節と繋ぐが、最近ではこの **թե** を省略することも多い。

例 : **Ես ուզում եմ իմանալ, թե ո՞վ է այդ մարդը:** 私は、あの人が誰か知りたい。

**քանի որ, որովհետև** は、理由を表す副詞説を導き、「～なので」という意味。

例文 : **Մարտը հաճախ կոչում են «գիժ ամիս», քանի որ եղանակը միշտ փոփոխվում է:** 3月はしばしば「狂った月」と呼ばれるが、なぜなら天候がしょっちゅう変わるからだ。

**թեև** は、譲歩を表す副詞説を導き、「～ではあるが」、「～にもかかわらず」とい

う意味。また、アルメニア語では主節の冒頭にも接続詞 բայց を置いて、節の切れ目をはっきりさせるのが普通。なお、本来は接続詞ではない չնայած も、現在は թեև と同じように使われる。

例：Թեև անձրև է գալիս, բայց երեխաները խաղում են դրսում: 雨が降っているのに、子供たちは外で遊んでいる。

Եթե は、仮定を表す副詞説を導き、「もし～なら」という意味。なお、主節の冒頭にも副詞 ահա を置いて、節の切れ目をはっきりさせることもよくある。

例文：Եթե համաձայն եք, ես դեմ չեմ: あなたが賛成なら、私は反対しません。

練習 2 : 各問の 2 つの文を、թեև, քանի որ, թե のうちから適当なものを選んで 1 つの文にしなさい。

- ① Ես շատ զբաղված եմ: Ես գալու եմ քեզ տեսնելու:
- ② Ես ուզում եմ իմանալ: Որտե՞ղ է աշխատում Աննան:
- ③ Արամը կարդում է ֆրանսերերն գրքեր: Նա լավ գիտի ֆրանսերեն:
- ④ Նա այսօր աշխատանքի չի գնում: Նա հիվանդ է:
- ⑤ Եղբայրս ավարտել է համալսարանը: Նա դեռ չի աշխատում:

#### ・小辞 էլ

アルメニア語の小辞 էլ は多義的に用いられ、副詞や接続詞のような働きをする。

##### 1. 「～もまた」(նույնպես)

例文：Ես էլ եմ անգլերեն սովորում: 私も英語を勉強している。

##### 2. 「もはや～ない」(այլևս)

例文：Ես է՛լ անգլերեն գրքեր չունեմ: 私のところに、英語の本はもうない。

##### 3. 「他に」(ուրիշ)

例文：Է՛լ ի՞նչ գիտես նրա մասին: 他にその人について何か分かる？

##### 4. 「一方」(իսկ)

例文：- Ես մի եղբայր ունեմ: 僕には兄が一人いる。

- Ես էլ մի քույր ունեմ: 私は、妹が一人いるわ。

##### 5. 「さらに」(ևս)

例文：Մի խնձոր էլ կե՛ր: リンゴをもう 1 個食べ。

Modern Eastern Armenian Grammar I  
ILCAA Intensive Language Course 2013: Armenian(Eastern), Textbook 1

東アルメニア語文法 I  
平成 25 年度言語研修 アルメニア語(東)研修テキスト 1

平成 25 年 7 月 31 日 発行

著者 吉村 貴之

発行 東京外国語大学  
アジア・アフリカ言語文化研究所  
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
TEL. 042-330-5600

印刷 日本ルート印刷出版株式会社  
〒135-0007 東京都江東区新大橋 1-5-4  
TEL. 03-3631-3861

©Takayuki YOSHIMURA  
ISBN 978-4-86337-138-5



ISBN 978-4-86337-138-5

